

IV-225 計画のコンセプトと連関構造パターンに関する一考察

㈱福山コンサルタント 正会員 石田 健
同 上 正会員 伊藤 将司
同 上 正会員 山本 洋一

1. 研究の主旨

近年、全国各地で地域活性化が叫ばれる中、公共空間を構成する施設計画において、個性、地域性等を反映しようとする試みが盛んである。その際、計画のコンセプトが極めて重要となってくるが、ややもすれば、あれもこれもと、総花的になりやすく、脈絡に欠けるケースも散見される。

本論は、コンセプトの有機的な連携をもった組み立てに資するために、コンセプトを構成するキーワード群に着目しイメージ、機能による連関という考え方を導入して構造パターン分析を試みたものである。

2. 基本的な考え方

既往の計画調査報告書より、コンセプトを構成するキーワード群を抽出し、キーワード群相互の連関パターンについて、アンケート調査の実施により分析を行った。また、その際の計画カテゴリーについては、計画の点、線、面という形態特性と計画内容の差異に着目して、“広場・公園計画”“景観計画”“地区計画”とし、それぞれ3編ずつ取り上げて、ケース・スタディを行った。

具体的な手順を図-1に、抽出したキーワードの例を表-1に示す。

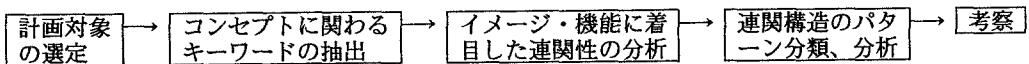


図-1 分析フロー

表-1 コンセプトを構成するキーワードの例

広場・公園計画	景観計画	地区計画
イベント空間、交流 シネ空間、文化 ストーリー性、ゆとり 交通基軸空間、歴史性 うるおい、脱日常感覚	うるおい、香り高い 経済活動の活性化、やすらぎ 歴史的文化遺産、ゆきかい 親しみ、シネ的な街路空間 地域らしさ、ふれあい	広域交通ターミナル機能、人材育成 アメニティ、ビル・コンプレックス ウォーターフロント、コンベンション アーバンリゾート、国際ビジネス機能 都市型居住機能、リサーチパーク

3. イメージ、機能に着目した連関分析

(1) アンケート調査の要領

コンセプトを構成するキーワード群をOD表形式で表示し、キーワード毎にまず、イメージ的に連想されるものを選択させ、ついで、機能的に関係が強いものを選択させるという手順を用いた。イメージ連関については、1位、2位までを、機能連関については、関係があると思われるものすべてを選択させた。

(2) パターン抽出の考え方

イメージ、機能ともに吸引力の大、小でキーワード群を3ランクに分けた。また、連関強度についても、平均値を目安に強弱3ランクに分けた。このランク区分にもとづき、吸引力の大きいもの、連関度の強いものをベースに1種のツリー図を作成する要領でパターン化を行った。

4. 連関構造のパターン分類、分析

3.の方法により組み立てた各ケースの連関構造パターンは、6つのパターンに類型化出来た。また、これらは、基本パターンとそれらの複合パターンに2分される（図-2）。パターン類型の実例を図-3、4に示す。

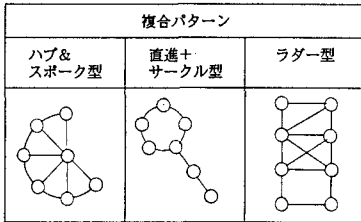
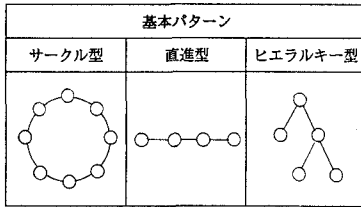


図-2 連関構造パターンの類型

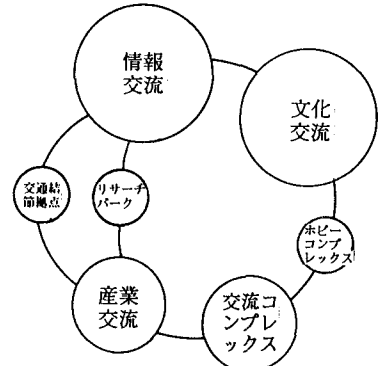


図-3 サークル型の実例

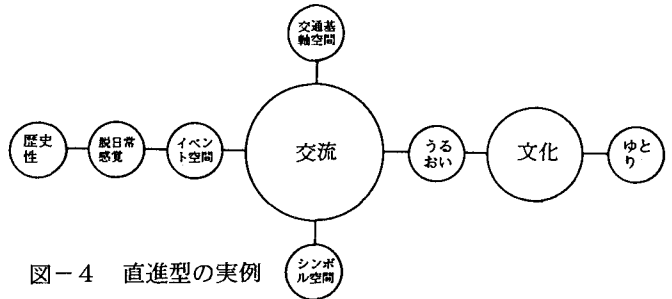


図-4 直進型の実例

これらの類型パターンを各ケースについて整理すると以下ようになる。

表-2 ケース別連関構造パターン

	広場・公園計画			景観計画			地区計画		
	多目的広場	都市公園	自然公園	シンボルロード	街路ネットワーク	河川	再開発	拠点開発	拠点開発
イメージ	直進	ハブ&スポーク	ヒエラルキー	ラダー	ハブ&スポーク	サークル	ハブ&スポーク	サークル	ハブ&スポーク
機能	直進	ハブ&スポーク	ヒエラルキー	直進	直進+サークル	直進	直進+サークル	ハブ&スポーク	サークル
計画別パターン(*)	ヒエラルキー型			直進型			サークル型		

(*)：計画カテゴリー別基本パターンの傾向

5. 考察

・今回の研究では、コンセプトを構成するキーワード群の連関構造より、6つのパターンを抽出することができた。これらは、さらに、基本パターンと複合パターンに大別できる。

・計画カテゴリー別に各パターンを勘案すると、広場・公園計画：ヒエラルキー型、景観計画：直進型、地区計画：サークル型が基本パターンとして抽出された。すなわち、計画内容により基本パターンをおおむね、対応づけることが可能であった。

・各ケースによって、イメージ連関と機能連関のパターンが一致するものと異なるものがある。具体的には、広場・公園計画では一致しており、景観計画、地区計画では異なっている。イメージ、機能両者の連関構造パターンを調和させる方向でのコンセプトの組み立てという方向も検討に値すると思われる。

・従来、このようなコンセプトの連関構造の研究事例は少なく、本論は、計画内容、対象の条件等に応じた有機的連関を有するコンセプトづくりのための基礎的研究として位置づけられるものであり、今後さらに、事例の拡大による分析、空間構造と対応づけた立体的な構造分析等に検討を進めていきたいと考えている。